

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぐんぐん九条		
○保護者評価実施期間	7年 2月 5日 ～ 7年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	7年 2月 5日 ～ 7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10 (回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 4 月 15 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者や関係機関との密な連携を図り、個別支援計画や専門支援計画の策定を行っている。	保護者との信頼関係を築き、関係機関と情報を共有することで、共通の目標を持ちながら支援の一貫性を保つよう努めている。また、児童の特性や成長段階に基づいて具体的に達成可能な目標を設定し、保護者や関係機関と連携しながら課題の早期対応と問題解決に取り組んでいる。	多職種が協力し合い、専門性を活かして質の高い支援を一貫して提供するためのサポート体制を整える。また、児童・保護者のニーズに柔軟に応えながら、信頼できる支援を継続していく取り組みを行う。
2	具体的なスキルの習得や集中力とモチベーションの向上を図る個別・小集団学習を実施し、友達とのコミュニケーションや協調性を養うための集団活動を提供している。	個別・小集団学習では、学習支援やソーシャルスキルトレーニングを行い、児童が興味を持つことや得意分野を取り入れながら、楽しんで学べる環境を提供している。集団活動では、サーキットトレーニング、マット運動、大縄跳び、リズム体操等を実施し、成功体験を積み重ねることで自己肯定感を向上させ、自信へとつなげている。	専門職員との連携を活用し、質の高い個別指導や小集団学習、さらに集団活動を提供することで、活動内容の充実を図り、活動の幅を広げる取り組みを行う。
3	外出支援・クッキング・地域活動等のイベント活動を土曜日・祝日に提供している。クリスマス会・ハロウィン・夏祭り等の季節のイベントも開催し、トマトやメロンの水耕栽培やカブトムシの飼育にも取り組んでいる。	リスク管理と安全性の確保を徹底し、楽しみながら学べる環境を整えている。児童の特性や成長段階を考慮し、それに応じた役割分担を行い、達成感を得られるような活動内容を設定している。自然や生物とのふれあいを通して、食べ物への感謝や生き物を育てる責任、そして命の大切さについて学ぶことができる	児童が楽しみながら学べる環境を整え、活動の幅を広げることで、一人ひとりの創造力や好奇心を引き出し、豊かな学びの場を提供する。また、共同作業やコミュニケーションの機会を増やし、多様な経験を通して成長を促進する取り組みを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流会の機会がない。	ルールを明確にし、情報管理を徹底することが重要である。また、保護者の期待や参加意欲が個々に異なるため、それぞれのニーズを丁寧に把握することが求められる。さらに、運営スタッフのスキルを向上させる取り組みや、十分な時間と適切な場所の確保等、多くの調整を行い、参加者全員が安心して活動できる環境を目指す必要がある。	保護者の声を積極的に反映した交流会の開催が求められる。安心して参加できる環境を整えるためには、時間や心理的負担を軽減し、参加しやすい形式を導入する工夫が必要である。
2	きょうだい向けのイベントの機会がない。	ルールを明確にし、情報管理を徹底することが重要である。保護者同伴が必要な活動では保護者の負担が増えることも課題となる。また、運営スタッフのスキル向上や、時間・場所の確保といった多くの調整も必要不可欠である。	きょうだい間の絆を深めるためのイベントを検討する必要がある。その際、年齢や発達段階に応じたプログラムを設定し、共同作業を通じて協力し合う活動を取り入れることが重要である。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会がない。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の開催には、専門的な知識やスキルを持つ職員の育成・確保が必要である。また、十分な時間や適切な場所を整え、参加者が安心して活動できる環境を作るために、多方面での調整が求められる。	家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）を円滑に実施するためには、必要な知識やスキルを持つ職員の研修と養成を計画的に進める必要がある。